

# 翔

百万石蝶談会 No. 152  
October 2001

山口英夫・荒木克昌：マルコガタノゲンゴロウ石川県で記録(第2報)

大脇 淳：金沢市内でイッシキキモンカミキリを採集

陸蝦井淳郎：石川郡鶴来町にてジャコウアゲハ終令幼虫を採集

日吉芳朗：秋さなかの10月にジャコウアゲハを目撃する

三上 秀彦：石川県尾口村でムラサキシジミを採集

大脇 淳：加賀市刈安山でオオムラサキを観察

富沢 章：南西諸島におけるチョウ2種の記録

久慈一英：ロッキー山脈採集旅行2000 Part 3

## マルコガタノゲンゴロウ石川県で記録（第2報）

山口英夫・荒木克昌

### ■その1■

筆者の1人の山口は、能登に飛び現地近くにキャンプを張って調査を開始した。まだ梅雨明けはしていないが暑い一日になった。荒木氏がクロゲンゴロウを確認した池では、次の水生昆虫が確認できた。

#### ■2001年7月9日 石川県能登北部 山口英夫 採集

ヒメアメンボ 1頭、アメンボ 1頭、オオコオイムシ 1頭、ミズムシ 3頭、  
ヒメミズカマキリ 1頭、ミズムシ類（同定中）2頭、マツモムシ 1頭、  
コツブゲンゴロウ 5頭、ヒメケシゲンゴロウ 5頭、ツブゲンゴロウ 5頭、  
ルイスツブゲンゴロウ 5頭、キベリクロヒメゲンゴロウ 5頭、  
クロゲンゴロウ 5♂5♀、オオミズスマシ 1頭、タマガムシ 3頭

ヒメケシゲンゴロウについては石川県初記録で、ゲンゴロウ科では31種目となる。ケシゲンゴロウがおらず、全てヒメケシゲンゴロウであったように思われた。

荒木氏がマルコガタノゲンゴロウを確認した池に隣接した池での確認水生昆虫は、次のとおりである。

#### ■2001年7月9日 石川県能登北部 山口英夫 採集

タイコウチ 1頭、ミズムシ 1頭、マツモムシ 1頭、クロゲンゴロウ 1♂1♀、  
キベリクロヒメゲンゴロウ 5頭、マルコガタノゲンゴロウ 2♂2♀、  
オオミズスマシ 1頭

マルコガタノゲンゴロウが生息している池は、大きく環境も良く、感じはいいが、心配なのは大きな鯉が放されており、成虫、幼虫共に食べられてしまう可能性があることだ。シャープゲンゴロウモドキの生息地だった穴水町樟谷が採集圧により絶滅に近い状態になったこと、周辺の池をいくつか調査したが上記2つの池とは環境が違いすぎていたことから、詳細な生息地はやはり明かすべきではないと思った。

### ■その2■

荒木氏、能登に飛ぶ。今回は同じトンボ屋の二橋 亮氏も同行し、トンボの生息調査をする。前回ですっかりゲンゴロウ屋になった荒木氏は、またまたお手柄で、今度はマルガタゲンゴロウを採集する。トンボにも収穫があったようで、報告に来た彼の笑顔は最後まで切れることがなかった。彼にも能登の調査は暑い一日となったようだ。

## ■2001年7月14日 石川県能登北部 荒木克昌 採集

マルガタゲンゴロウ 1頭、ヒメケシゲンゴロウ 8頭

マルガタゲンゴロウについては石川県初記録で、ゲンゴロウ科では32種目となる。このゲンゴロウは、4～5月ごろ水のきれいな環境の良好な池に見られる。同地の池もその環境にあてはまった池であるが、この時期に確認できたのはラッキーである。

また、荒木氏は、この地域を広い範囲に渡って調査中で、ナミゲンゴロウ、クロゲンゴロウの幼虫の他、マルコガタノゲンゴロウの幼虫らしきものを各地で採集し、飼育中で、もしマルコガタノゲンゴロウになれば、分布域はかなり広いものになる。

《やまぐち ひでお 930-0944 富山市開726》

《あらき かつまさ 〒939-8045 富山市本郷町5区57-19 ヴィル・フォルレ-201》

## 金沢市内でイッシキキモンカミキリを採集

大 脇 淳

石川県内のイッシキキモンカミキリについては、鶴来町（入場、1993）及び小松市（矢田、1996）からの採集記録が知られているが、筆者はこのたび、金沢市内の2ヵ所で7頭の本種を採集しているので報告する。

2000年6月22日	金沢市俵	1♀採集	大脇 淳
2000年6月26日	金沢市俵	1♂採集	大脇 淳
2000年7月1日	金沢市俵	1♂採集	大脇 淳
2000年7月16日	金沢市俵	2♂1♀採集	大脇 淳
2000年7月24日	金沢市別所	1♂	大脇 淳

天候はいずれも晴れ。クワの葉上に静止しているものや、周辺を飛翔中のものを採集した。従来の記録と今回の採集例から、本種は加賀地方の低山地に広く分布しているのではないかと推測される。

末尾ながら、本種の生態についてご教示をいただき、発表を勧めて下さった井村正行氏に篤くお礼申し上げます。

## 《参考文献》

入場 登（1993）鶴来町にてイッシキキモンカミキリ採集．アカハネムシ(3):2.

矢田新平（1996）小松市内でのイッシキキモンカミキリ採集記録．翔(122):3-4.

《おおわき あつし 〒920-0921 金沢市材木町15-67 コーポ兼六101号》

## 石川郡鶴来町にてジャコウアゲハ終令幼虫を採集

嵯峨井淳郎

石川郡鶴来町の水田跡でジャコウアゲハ終令幼虫を採集したので報告する。

1999年9月24日 石川県石川郡鶴来町八幡地内 1幼採集 嵯峨井淳郎

現地はかつての水田跡で、地主等の話によれば休耕して3年程度経過している。小さなウマノスズクサが、いわゆる「畦道」に繁茂するのを確認した時点より、発生しているのではないかと推測していた。筆者の採集後、松田俊郎氏は終令幼虫4頭を確認している。

なお、筆者が採集した終令幼虫は、若干のウマノスズクサと共に牧原悟郎氏に飼育を委ねたところ、翌春1♂が羽化した。

1999年10月1日 蛹化 2000年4月20日 1♂羽化

《さがい じゅんろう 〒921-8145 金沢市額谷3-18-2》

## 秋さなかの10月にジャコウアゲハを目撃する

日吉芳朗

2000年10月17日、この日は輪島市も珠洲市も終日無風の曇天であった。私共厄年の一行は、慰安旅行と称して輪島発8時44分の臨時御座敷列車に乗り込み、珠洲市蛸島町へ向かった。途中、珠洲郡内浦町にある九十九湾小木駅に臨時停車したのは10時20分頃であっただろうか。車窓より景色を眺めていた友人の一人が、突然「日吉。あの黒い蝶は何や。いまどき珍しいではないか」と叫んだ。驚いて窓外を見た瞬間、オナガアゲハかと思ったが、いささか小さすぎる。運転手さんに断って汽車から飛び降りた。駅舎と反対側の土手の草叢をかきわけて下って行くと、まさに目の前1mばかりのところのクズの葉上に新鮮なジャコウアゲハ1♂が静止していた。ネットを持っていなかったのではばらくながめているうちにやがて飛び立ち、周囲を旋回しつつ山手の方へ消えて行った。と同時に運転手さんの「早く乗ってください。汽車が出ますよ」との声がした。

後日、このことを松井正人氏にお話したら、この時期の新鮮な個体は珍しく、県内のこれまでの最も遅い記録より約1ヶ月も遅いとのことであった。

ジャコウアゲハ 2000年10月17日 石川県珠洲郡内浦町小木 1♂目撃 日吉芳朗

11月3日、再び同地点を日吉南賀子と訪れ、食草のウマノスズクサをさがした。線路下の土手のあちこちに群生しているのを確かめることができたが、幼虫や蛹を見つけることはできなかった。

《ひよし よしろう 〒928-0001 輪島市河井町1部64-1》

## 石川県尾口村でムラサキシジミを採集

三上 秀彦

石川県では記録の少ないムラサキシジミ *Narathura japonica* を尾口村で採集しているので、記録にとどめておく。

2000年8月5日 石川県石川郡尾口村新岩間温泉 1♂ 三上秀彦

日溜まりの草地に静止していたもので、著しく汚損していた。

《みかみ ひでひこ 〒920-0266 石川県河北郡内灘町大根布6-47-1》

## 加賀市刈安山でオオムラサキを観察

大脇 淳

加賀市刈安山でオオムラサキを観察しているので、報告する。オオムラサキは、加賀地方では比較的普通に観察されるが、山中町と加賀市においては最近30年間の記録がなかった（松井、1998）。

2000年7月19日 石川県加賀市刈安山 (alt. 350m) 1頭目撃 大脇 淳

2001年6月29日 石川県加賀市刈安山山頂 1頭目撃 大脇 淳

2回とも頭上を飛び、裏面しか観察できなかったので、雌雄については何とも言えないが、サイズの的には2000年が♀、2001年が♂のように思われた。

《参考文献》

松井正人（1998）チョウ目蝶類，石川県の昆虫：342-365. 石川県.

《おおわき あつし 〒920-0921 金沢市材木町15-67 コーポ兼六101号》

## 南西諸島におけるチョウ2種の記録

富沢 章

沖縄県の石垣島、西表島へ出張の折り、次の2種のチョウを採集したので報告する。

ヒメアサギマダラ 2000年11月19日 西表島古見 1♂（石川県昆虫館所蔵）

ナガサキアゲハ 2000年11月22日 石垣島バンナ岳 1♂（石川県昆虫館所蔵）

ヒメアサギマダラはアメリカセンダングサで吸蜜していた個体、ナガサキアゲハはサンダンカで吸蜜していた個体で、後翅はかなり破損していた。

ヒメアサギマダラを同定していただいた三上秀彦氏にお礼申し上げる。

《とみさわ あきら 〒923-0911 小松市大川町3丁目71》

## ロッキー山脈採集旅行2000 Part 3

久慈 一 英

7月22日 (10日目)

夜が遅いためか疲れがたまってきた、毎日だんだんと出発が遅くなってきている。この日も10時を過ぎてしまった。朝は、スーパーで買って食べるのが、手軽でよい。ついでに、飲み物など補給しておく。こちらのモーターでは、冷蔵庫がなくても氷が必ず好きなだけ無料でもらえるので、クーラーボックスや魔法瓶に氷を入れておけば1日冷たいものが飲める。ジュース類はおいしいが、子供達がすぐ虫歯になるのでなるべくボトルの水を買っておく。店は乏しいので、昼食も町で準備した方がよい。



図1：デッドインディアンヒルからの風景。映画に出てきそうな乾いた西部の山々が連なる。乾燥しているが、多様な蝶が生息している。

この日は、北のベアータウス峠 Bear Tooth Pass 10,847ft (=3,254m) というところへ向かう。標高もあってなかなか良さそうな予感がある。途中、デッドインディアンヒル Dead Indian Hill 8,048ft (=2,414m) というちょっと恐ろしげな名前の峠を通る(図1)。

ここは、開けた草原になっていて白いウスバシロチョウが飛んでいるのが見える。さっそく、車を止めて採集にはいる。広い斜面に白い蝶がパラパラと飛んでいるのが見える。数はそれほど多くない。雄を少し採ったあとは子供達に任せて、私は雌を探す。ここは、雌が手強くてなかなか見つからない。雌を探すには、雄が戯れている場所を目印にして探せばよい。雌がいないところでは、雄はまっすぐに飛び去っていくのである。これを実践すると、効率が上がって、数頭の雌を得ることが出来た。ここの雌の個体は、全体に地色は黒くて、赤斑が大きくて美しいものであった。標高がやや低めのためか、大きさも大きめ。なかなか良い蝶である。*P. smintheus montanas* というものだろうか。ウスバシロチョウは、風に乗るとすごい勢いで飛んで行くが、草原を直線的に速く飛ぶものがある。ウスバシロチョウかと思って、なんとか捕らえてみると、これがウスバシロチョウに擬態した昼行性の Silk moth というガであった。風がないと飛び方で見当がつくが、風があると区別は難しい。似た模様で、オレンジ色のガも飛んでいた。さすがにオレンジのウスバシロチョウはいないはずだが。ここでは、他にギガンテアモンキチョウ *Colias gigantea* を得た。ギガンテアモンキチョウは、その名のごとく大型で特に雌は大きくて美しい。どちら

かという乾燥気味の高原に生息するらしく、この場所でのみ得られた。

ベアーテューズ峠は、昼頃に着いた。ここは、広い草原状の場所で湖や展望台がある。まず、Lake Butte Outlookと書かれた展望台への道へ入ってみた。林道のある斜面は、開けた草原で、美しい花々が咲き乱れたとても素晴らしいところである。入ってすぐに、草原にムースという牛と鹿の間のような動物が草を嚙んでいた。子供達は、制止も聞かずに草原に入ってムースに近づいていった。10mくらいまで寄ったところで逃



図2：ベアーテューズ峠の近くの展望台に至る林道。この日は無風好天の絶好の採集日和。道路脇の湧水に沢山の蝶が集まっていた。子供でも採り放題の状況。



図3：道路脇でのテアノベニヒカゲ *Erebia theano ethela* の集団吸水。本種はロッキー山脈でも局地的に分布しており、どこにでもいる蝶ではないのだが、この日は一番多かった。

げていったが、子供には忘れられない光景であっただろう。林道脇に水がしみ出た場所があり、蝶が吸水に来ている（図2）。あわてて車を止めて、採集にかかる。なんと沢山のテアノベニヒカゲが吸水している（図3）。ゆっくりと採集する。他にも、アメリカカバイロシジミやキャリクレアヒョウモン、エピプソーダベニヒカゲなどもおり、はじめてのコロラドベニヒカゲ *Erebia callias* がいた。快晴で無風の最高のコンディションで、ここはまさにベニヒカゲのパラダイスといえるところであった。特に、テアノベニヒカゲは、非常に局地的な分布の蝶であり、卵から羽化まで2年かかるようで、2年ごとにしか発生しないとある。これだけ多くの個体が見られたのは、幸運であった。先に採ったトグオテー峠の個体とは、わずかに斑紋が違うようである。それにしても、美しい場所であった。展望台は、展望のための塔が立っていて登ることが出来る。草原の向こうには茶色い岩肌に見える美しいカールが見え、氷河の名残が見て取れる。岩山まで行けばタカネヒカゲなどいそうな感じがして誘惑はあったが、時間がないので草原のみとした。ここで採り始めたところ、近くの大学で天文学を教えているという先生に声をかけられた。何を採っている

の？といことから話が始まった。彼は夜の天体観察のための下見に来ているということだった。この場所は星を見るには非常に良い場所ということだった。長野の野辺山の様なところか。蝶のことを説明すると、興味深く聞いていた。でも話が長くなって、採集がちょっと中途半端になってしまった。話している途中に展望台の横に黄色いアゲハが飛んでいるのが見えて、行きたかったが行けなかった。一体何の種類だったのだろうか。しかも2時くらいになると、次第に曇りがちになってしまった。周囲の草原には、ロッキーウスバシロチョウがいたが、どうしても雌は見つからなかった。まだ、発生していなかったのかも知れない。

夕方は、イエローストーン国立公園の北東の入り口から入る。程なく、前方に車が止まっている。よく見ると、横をアメリカンバッファローの巨体が歩いている。昔は米国の各地に沢山いたというアメリカンバッファローも、今ではここ以外ではなかなか見ることは出来ない。車の間近に見る大きな動物は子供達にとっても妻にとっても興奮を抑えられない。何とバッファローは道路まで出てきて車と一緒に歩き始めた。本当にでかい。しばらく併走した後、彼に別れを告げて先へ進むとまた何かいるらしい。よく見ると、今度はコヨーテであった。自然状態での肉食動物を見ることは大変難しい。本当に運が良かった。自然の動物を見つけるためには、早朝か夕方がよい。昼間は、蝶を採集して夕方に動物を見に行くというのは賢いようである。

7月23日（11日目）

昨日のベアーテウス峠にてロッキーウスバの雌をもう一度探すことにした。しかし、この日は曇りがちで非常に風が強くて条件が悪い。デッドインディアンヒルも昨日とは違って変わって、蝶が少ない。昨日の展望台に登ってみるが、ここも蝶がほとんど見られない。昨日あんなに沢山いた道路脇の湧水にも何もいない。気候条件による蝶の数の差を実感した。蝶は皆どこへ行ってしまったのだろう。仕方なく諦めて、近くの湖の近くに行ってみた。小川の横が開けた湿性の草原になっていて、いかにも蝶のいそうな感じのところであったが、蝶は非常に少ない。ペリドネモンキチョウが少しと小型ヒョウモンが採れただけだった。ただし、ヒョウモンは後日半分がキャリクレアヒョウモンで半分がイエロー



図4：イエローストーンヒョウモン *Boloria kriemhild* (左♂表、右同裏)。ベアーテウス峠産。イエローストーン国立公園周辺の限られた地域に遺残的に生息する特産種。

ストーンヒョウモン（図4）であることがわかった。外見が似ているだけではなく、住んでいる環境や習性も似ているということである。何故、同じような蝶が共生できるのだろうか。交雑は無い

のであろうか。いろいろと考えさせる蝶である。この辺りには、白いユリ（氷河ユリ？）の花が咲いていたりして、写真を撮るにはもってこいの場所であった。

午後は、イエローストーンに入って、不思議な天然のマンモス温泉Mammoth Hot Springsを目指す。温泉の辺りは、イオウなどの塩類で黄色っぽいのが、様々な色も付いていて、造形も不思議な幻想的な風景であった。スケールも大きくて、やはり一見の価値がある。少し先には、黄色い岩肌が異様な深い溪谷がある。このイオウの黄色い岩肌がこの国立公園の名前の由来と言うことだ。場所場所により、様々に変化する風景の多様さがこの米国で一番古い国立公園の魅力である。野生動物も見られるので、飽きることがない。

ゆっくりしすぎたため、この後がまた大変だった。宿泊地のアイダホ州のグランドタギーに着いたのは11時過ぎ。モーターの受付は、既に就寝に入っていた。たたき起こして、受付しようとする、何とすでに4日前にキャンセルされているという。空き部屋はなく、どうにも割り切れないが、代わりのモーターを手配してくれると言う。近くの別のモーターに移動すると、受付のおばさんがネグリジェで対応してくれた。嫌な顔もせずやってくれて、本当に助かった。

7月24日（12日目）

今日は、移動日。一路、南東へとひた走る。途中、麓のブリッジトン国有林 Bridge-Teton National Forestの一角で、ちょっと寄り道。乾燥した草原だったが、近くに小川が流れているので、覗いてみた。草原には、意外にも蝶が沢山飛んでいて、主にベニシジミ類であった。ヘロイデスベニシジミは雌も多くて面白かったし、何といてもアオベニシジミが沢山いた。やや傷みはじめてあったが、きれいなものを採った。エディスベニシジミも採れた。オエテウスジャノメ *Cercyonis oetus charon*も沢山いた。足場も良く子供や妻も簡単に採れるので楽しめた。ロッキーでは、つつい高標高地を目指してしまいがちだが、実は麓の草原も優に2000mぐらいいはあるのだから、時期が当たれば多くの面白い蝶がいるというわけである。

この後は、ひたすら走ってローリングスRollingsという町まで行った。昨日のこともあったので、ちょっと早めに着いた。三角紙を折って、就寝。

7月25日（13日目）

事実上今日が最後の採集日。さらに南へ向かう。高速道路だけでは面白くないので、ロッキーマウンテン国立公園の西側をまわってコロラドへ入る。ローリングの町を出て、行くときに寄ったスノーレンジのある山脈の麓に差し掛かったとき、子供が小用を催促する。近くには店もスタンドもないので、ちょっと横道に入って木陰で用を済ませる。私は、蝶でもないか辺りを散歩してみる。道路脇には、黄色い花が満開になっていて、よく見ると白い蝶がとまっている。なんとロッキーウスバの雌であった。こんな低い標高の



図5：クレナイベニシジミ *Lycaena rubidus rubidus* (左♂表、右♀表)。日本のベニシジミより一回り大きく、ちょうどゼフィルスの緑を赤に変えたという印象のシジミチョウ。黄金の光沢がたまらない。

ところにもいるのだなあ  
と改めて実感。他にも蝶  
が花に沢山止まっており、  
しばらく採集となった。  
良く見渡すと近くに川が  
流れており、Lake Owen  
Creekというらしい。花に  
は沢山のセセリがおり、  
アカセセリ *Hesperia comma*

*harpalus*とシルバノイデスキマダラセセリ *Ochlodes sylvanoides sylvanoides*がいた。しかし、このセセリも他の場所ではあまり見なかったから、恐らくやや低地性の種類なのであろう。シジミが結構いて、カラスシジミの仲間が採れた。ベリカラスシジミ *Satyrium behrii*、チテウスカラスシジミ *Satyrium titus titus*などである。いずれも、はじめてお目にかかる種類であった。アオベニシジミはここにもいた。少し小さめの個体であった。そして、何より嬉しかったのは、赤いクレナイベニシジミ *Lycaena rubidus* (図5) というのが採れたことである。雄表面は赤く輝いてまさに赤いゼフィルスという趣の美しい蝶である。雌も大きくて雰囲気がある。雄の飛ぶ姿は、赤い閃光という感じであった。最終日に来てこれを得られたことは運が良かった。どうやら、2000m前後の乾燥した草原の中の小川沿いなどに生息するらしい。高標高地には少ないようだ。

ウィロー峠 Willow Creek Pass 9,683ft (=2,905m) という針葉樹林帯の峠で降りてみたが、蝶も少なく大したものはいなかった。ヘロイデスベニシジミ、グランドンシジミ、セピオルスシジミ、スカッターモンキチョウなど。ちょっと当てが外れた。

さらに、前に通って大雨だったベサウド峠に着いたが、すでに夕刻で遅すぎた。スキー場になっていて、広い草原にはいろいろなような感じであった。

再びデンバーの空港近くのモーテルへ到着。長い運転もこれで無事終わった。走行距離は、約3000マイル、4600kmのロングドライブであった。

7月25日 (14日目)

今日は、飛行機でニューヨークへ帰る日。早めにホテルをチェックアウトしてレンタカーを返しに行った。料金体系が、4駆のため、走行マイルが基準を越えると超過料金が課せられる。ある程度予想はしていたが、超過料金が900ドルを越えてしまった。やはり、マイル制限のない車を借りる方が得策だ。帰りの航空機は、特にトラブルもなく無事にニューヨークラガーディア空港へ到着した。ニューヨークは、小雨の降るじめじめした気候。タクシーの運転手に聞くと、我々がニューヨークを発つて以来、ずっと天気が悪いらしい。ロッキーがほとんど快晴続きだったのと対照的な、これも異常気候であった。この後、

ニューヨークは、ずっと悪天候の冷夏で、結局夏の成果はほとんどないことになった。異常気候に影響を受けたロッキー採集行であった。

最後に、具体的な良い情報をいただいた野中 勝氏と、久枝譲治氏にあらためて感謝する。広大な初めての土地に採集に行くためには、具体的な情報を得て、ポイントを絞り込むことが重要だ。異常気候にも関わらず、それなりの成果を挙げられたのは、先人の貴重な情報が参考になったためである。ロッキー山脈での成果を上げる方法は、ポイントを沢山まわるといふ、言うなれば当たり前の結論である。一カ所に、沢山の種類がいる場所はむしろ少なく、場所によって異なる蝶が見られるようである。これは、日本と変わらない。どのような環境にどのような蝶がいるかを、予め知っておくと効率がよい。さらに、狙いを絞ると結果がいいと思われる。そして、採れる蝶は、なるべく採る。これは、基本だが蝶が沢山いると意外に守れない。例えば、今回はロッキーイチモンジは、結局最初の日の朝がベストタイミングであった。後半は、みなボロボロばかりで、結局数頭しか採れなかった。また、イエローストーンヒョウモンに至っては、展翅するまでわからなかったので、数頭のみで終わった。これも、キャリクレアヒョウモンをもっとしつこく採っていたら、増えていたであろう。

今回期待していた中で採れなかった種類は、イエローストーンヒョウモンモドキ *Euphydryas gillettii* ぐらいであるが、ロッキークモマツマキチョウの黄色い雌も採りたかった。出来れば雄ももっと採りたかった。思い残すことは、こんなことくらいであり、全体としては本当に素晴らしい採集行であった。家族も一緒に採集に加わったが、特に4歳の瞳と6歳の愛の娘たちの成果も意外に大きかった。特に、ギガンテアモンキチョウの雄は子供のみが採っていたシクモシロチョウの多くも子どもたちが採った。ベニシジミやヒョウモン類も子供が沢山採っておいてくれて後で助かった。そして、旅行を支えてくれた妻にも感謝する。ロッキーは日本に例えれば、数十年前の信州の高原といった環境である。しかも、最高の環境の高山帯でも採集が可能というところが、夢のようなところである。日本からも意外に行きやすいので、時間と興味のある方は計画されることをお勧めする。しかも、先進国合衆国だから道もホテルも食べ物も困ることはない。気持ちのよい採集旅行ができる。

P. S. 小生、最近ホームページを始めて、今回のロッキー採集旅行の蝶の標本画像も少し載せましたので、興味のある方はご覧下さい。 <http://www1.sphere.ne.jp/colotis/>

#### 《参考文献》

野中 勝 (1987) 翔(67):8-10.

Jeffrey Glassberg (1999) Butterflies through binoculars The East.

James A. Scott (1986) The Butterflies of North America.

《くじ いちえい 〒920-1161 金沢市鈴見台3-1-3》

月曜の釈迦林道大燈火採集会

八月の釈迦林道は規制がかなり何かと入りにくい。まして夜ともなればなおさらで、入ったは良いが出られなくなつた事もある。そこで規制がかかる金土日を選けた月曜になつたが、毎日の仕事を持つ身では参加しづらい。それでも八人が参加し、大採集会となつた。

八月二十五日の白山釈迦林道

キベリやエル、アサギマダラからの招きで石畑・松井の両氏と日吉夫妻は、連れだつて釈迦林道に入つた。暑さもここまでは及ばず、釈迦岳や千仞の滝が鮮やかに見え、当日の成果は約束されているかようだった。ところが、タテハはチラリと姿を見せただけで、あれほど多いアサギさえ数頭しか観察できなかった。

輪島のアサギは何処へ行く

七月下旬に輪島を飛び立つアサギマダラは一旦北上、

季節の変化とともに南下に転じ、太平洋岸に抜けてから南

西諸島を伝つて南下すると思われている。事実、尾瀬、丹沢、御坊、喜界島、宮古島と再捕獲されているが、今度新たに裏磐梯でも再捕獲された。

オオモンシロチョウを初ゲット

蛾のタイプ標本を見せてもらいに北大を訪れた富沢氏、キャンパス内で大きなモンシロチョウ多数を目撃。早速ネットを持って近くの公園へ出かけ、オオモンシロを初ゲット。

ポツリポツリとエルタテハ

これまで、それ程観察記録が多くないエルタテハが、今年、たびたび観察されている。医王山や赤兎登山口に始まり、定番の釈迦林道では、九月に入つても観察されている。

今夏の猛暑でビール地獄

地獄と書いたが、本人にとつてはビール天国。日本酒党も今夏の暑さには耐えきれずビールに走つた。虫が多い

今年、八月の予定はいつになくいろいろと有つたが、すべてチャラになつてしまった。

白山にアサギがやってきた

釈迦林道に常設トラップを設置し、週に一度は通つている細沼氏、八月にはほとんど観察できなかったアサギマダラを、九月八日にまとめた数を観察した。

迷走台風になんにもできず

アメリカのテロ騒ぎで気が付かなかつたが、行き場を失つたかのような台風十六号は、八重山周辺をウロウロしていた。この時期、石垣、与那国に入った三上氏、連日の暴風雨にお手上げ状態。

孤軍奮闘は先細りする

賛同者のいるプロジェクトは、成果があり継続するが、賛同者が消えたとたんに先細りの道を歩み始める。いかにして次の賛同者を求めるか、いかにして次の賛同者が現れるまでプロジェクトを維持す

るかは、企画者の熱意以外にはないが、あなたの一言で企画者が燃え上がれば、あなたももう賛同者の一人です。

例会の記録

八月二日(木)城南管工一階にて八時から開催。

輪島で採れた本州初記録の迷蝶あてクイズは、事前にメールで流していたものの正解者はゼロ。アサギマダラのマーキング中に採集されたタイワンアサギは、アサギと一緒に北上してきたものだろうか。

各自の話題は、またまた採れたエルタテハ、これだけ暑いとルーミスがいっぱい、暑い日は暗い林内にムラサキシジミ、続々見つかる初記録のゲンゴ、カブリモドキが死んだ、林道はマウンテンバイクに乗つて、せつかくの北海道もカンヅメ状態、などなど。

参加は、生田(耕)、大脇、細沼、中西、松井、久慈、井村、山岸、吉村、富沢(TEL参加)の十人。

【表紙デザイン…小幡英典】

# 会員の動き・しゃばの動き

ゲンゴロウブームが再来か  
 能登で見つかった初記録の  
 ゲンゴ三種、これまで探し続  
 けた大型種も含まれ、ゲンゴ  
 ブームの再来は間違い無い。

今年中には、更なる種も確認  
 され、果てはタガメも再発見  
 されるかもしれない。

七月二十九日の舳倉島調査  
 この時期、輪島で多数観察  
 できるアサギマダラ、移動途  
 中に舳倉島に立ち寄らないか  
 と、調査に出かけた日吉夫妻。  
 猛暑と強風の中、アサギは発  
 見できなかったが、ツクツク  
 ボウシが鳴く中、島初記録種  
 を採集した。

飼育は三世代目を目指して  
 一九九八年からシャープゲ  
 ンゴロウモドキの本格飼育に  
 取り組んだ富沢氏、数々の失

敗を克服し、今年六月には二  
 世代目の羽化に成功した。現  
 在、三世代目を目指して、ふ  
 れあい昆虫館で大切に飼育展  
 示している。

めつきり体力が落ちた虫屋の嘆き  
 疲れが抜けず、朝がづらい。  
 休日までに、どんどんたまつ  
 て、平日の様には起きられな  
 くなる。せめて雨さえ降って  
 いれば心が安らぐのだが、こ  
 んな日に限ってお日様がほほ  
 えんでいる。せつかくの休み  
 を無駄にしてみましたと後悔  
 しながらも、近所でお茶を濁  
 す日々が多くなった。

アサギマダラ早朝マーキング  
 七月下旬の鉢伏山、八月の  
 白山釈迦岳、九月の宝達山、  
 これが石川県のアサギマーキ  
 ングポイント。暑い八月は、

高標高地へ行かないとアサギ  
 がないと思われていたが、  
 涼しい早朝に出かけてみる  
 と、宝達山にアサギがいた。

虫も採らずにイワナ釣り  
 富沢、小幡の溪流組は、小  
 松の杖川上流へ。猛暑の溪流  
 はまさに別天地、岸辺にはい  
 ろんな虫もいたかと思うが、  
 目は水面しか見ていなかった。

珠洲市でベーツヒラタカミキリ  
 富沢氏、寺家で燈火採集し  
 たついでに、須須神社のスタ  
 ジイを見回り、ベーツヒラタ  
 を採集。暖地性のベーツヒラ  
 タ、七尾市の記録がこれまで  
 最も北の記録だった。

ツマゲロヒョウモンに異変  
 あつと言う間に金沢周辺で  
 も普通に観察できるようにな  
 ったツマゲロ、去年の拡大  
 は足踏み状態だったが、今年  
 は思うように観察できなくな  
 った。発生多数の場所が有  
 るかと思えば、全く観察でき  
 なくなつた場所も有る。

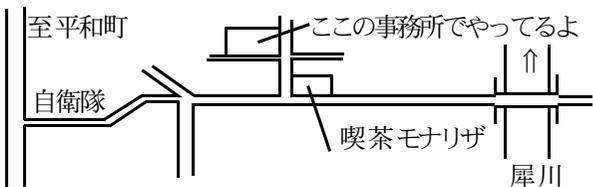
## 翔

152号

Tobu 2001年10月1日発行  
 百万石蝶談会

<http://member.nifty.ne.jp/hakusan/>  
 金沢市大場町東871-15 松井方  
 ☎920-3121 ☎076-258-2727  
 郵便振替 00750-8-562  
 印刷 小西紙店印刷所

例会は偶数月・5月・7月の第1木曜日8時から  
 TEL参加もOKです (076-244-3318)



## 目 次 (152号)

山口英夫・荒木克昌：マルコガタノゲンゴロウ石川県で記録(第2報)	1
大脇 淳：金沢市内でイッシキキモンカミキリを採集	2
嵯峨井淳郎：石川郡鶴来町にてジャコウアゲハ終令幼虫を採集	3
日吉芳朗：秋さなかの10月にジャコウアゲハを目撃する	3
三上秀彦：石川県尾口村でムラサキシジミを採集	4
大脇 淳：加賀市刈安山でオオムラサキを観察	4
富沢 章：南西諸島におけるチョウ2種の記録	4
久慈一英：ロッキー山脈採集旅行2000 Part 3	5
編集部：会員の動き・しゃばの動き	12